



太平湖

空が高くなり山々は錦秋の装い、田んぼは黄金色に輝く季節となりました。

コロナも次第に落ち着きつつあり、全国の皆様も改めて気持ちを一新して、明るく快活に活動を再開されているのではないのでしょうか。

皆様の楽しい活動投稿をお待ちしております。



桃胴滝

今号は、秋田の実話をもとに制作された、胸を打つ映画をご紹介します。



『赤い靴』といえば、あの童謡（野口雨情作詞）が頭に浮かぶと思いますが、この歌が発表されたのは大正11年のこと、実はそれより23年遡る明治32年（1899年）、秋田生まれのハツという少女が米国宣教師に連れられて、横浜から船でアメリカに渡ったという実話がありました。

この実話を題材に2019年から制作が開始され、コロナ禍による撮影中断を経て、ようやく9月に映画が完成しました。

そして秋田市中央図書館「明徳館」には、親子二人の『秋田の赤い靴』という像が建立され、これを題材にした芝居が上演されるなど、多くの話題と共感を呼びました。そのような経緯をご存知の方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。

この記憶が薄れないよう、風化させないように！との強い思いで『みちのく秋田— 赤い靴の女の子』制作委員会が編成され、映画が制作されました。

制作統括プロデューサー・大山雅義、脚本・監督は石谷洋子、そして壇蜜さんはじめとする多くの秋田出身者や永島敏行さん他が出演する、この秋田の実話感動作をみんなで応援しましょう。

映画公式サイト「みちのくあきた 赤い靴の女の子」

<https://akita-akaikutsu-eiga.jp>



《あらすじ》

八森に生まれた母親ふじ(壇蜜)は、嫁ぎ先での不幸な事件によって、殺人の罪で刑務所に収監、獄中で主人公ハツ(安田聖愛)を出産したが、その赤子をアメリカ人宣教師ミス・ハリソンが預かり、純粋で崇高な愛を注いでハツを育てる。

母親ふじは42歳で獄中息を引き取り、明治22年、12歳になったハツは、帰国することになったミス・ハリソンと共に、船で米国に渡った。

数年は2人で幸せな生活を送ったものの、折り悪く激しい排日暴動が起こり、2人はハワイに逃れる。ハツは公立学校の教員となり、彼の地の日本人移民と深く関わっていくが、肺に病を得て、短く波乱の生涯を終えることになる。享年32。

この物語は、この時代ならではの厳しい時代背景にも屈しない、国境を越えたミス・ハリソンとハツの人間愛が心を打つ。2人はいま、オアフ島の墓地に、寄り添うように静かに眠っている。

ハツ(主人公)
安田聖愛母ふじ
壇蜜カラ・ハリソン
A.ジェイブスふじの奉公先主人
永島敏行

《先行上映会のご案内》

秋田：10月24日(月)・秋田アトリオンホール(750席)

18：00開場 18：30舞台挨拶 19：00上映

東京：11月22日(火)・文京シビック(小)ホール(350席)

(昼の部) 14：30開場 15：00舞台挨拶 15：30上映

(夜の部) 18：00開場 18：30舞台挨拶 19：00上映

*先行上映会鑑賞券ご希望の方は下記まで(大人¥1500)

連絡先：『みちのく秋田 赤い靴の女の子』実行委員会
曾我貢誠 090-4422-1534

E-mail: info@akita-akaikutsu-eiga.jp

(秋田・鑑賞会のお求めは、10月14日まで)

*一般公開上映予定：詳細決定次第ご案内します。

《映画関連の「あきたじん」ご紹介》

脚本・監督 石谷 洋子さん

(放送作家、日本脚本家連盟理事)

横手城南高銀杏同窓会東京会・

支部長をされているあきたじんです

ホームページ「あきたじん」投稿のご相談等はこちらまで♪

秋田県総務部総務課・県人会等担当：柴田 穰・小松 康宏

◆電話：018-860-1054

◆E-mail: akitajin@mail2.pref.akita.jp